

福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組みをお伝えします Vol.24

福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを継続的に低減する「廃炉・汚染水・処理水対策」の取組みについてお知らせします。「復興と廃炉の両立」に向けて、廃炉を安全かつ着実に進めてまいります。

ALPS処理水の海洋放出にあたっての安全性確保「設備・運用の全体像」

※Vol.12と同様の内容です。

放出する水の安全性を確保します

当社は、政府の基本方針を踏まえて、ALPS処理水希釈放出設備等の設計や運用等の具体的な検討を進め、原子力規制委員会の実施計画変更認可を経て、2022年8月から、安全を最優先に設備等の工事を進めてきました。

2023年6月に設備の設置が完了し、原子力規制委員会の使用前検査を受け、同年7月に合格したことを示す終了証を受領しました。

また、国際原子力機関（IAEA）による安全性確認を受けてきており、2023年7月4日にIAEAから公表された包括報告書では、ALPS処理水の海洋放出は国際安全基準に合致していると結論付けられました。

右の取組みで、放出する水の安全を確保します。

海洋放出までの流れ

【ALPS処理水になるまで浄化】(右図①)

放射性物質が規制基準を満たしていない「処理途上水」は、ALPS等で再浄化し、「ALPS処理水(トリチウム以外は規制基準を満たした水)」にします。

【放射性物質の測定・確認】(右図②)

放出対象のALPS処理水について放射性物質の測定・確認を行います。測定は、当社に加え、当社が委託する外部機関も実施し、結果は速やかに公表します。

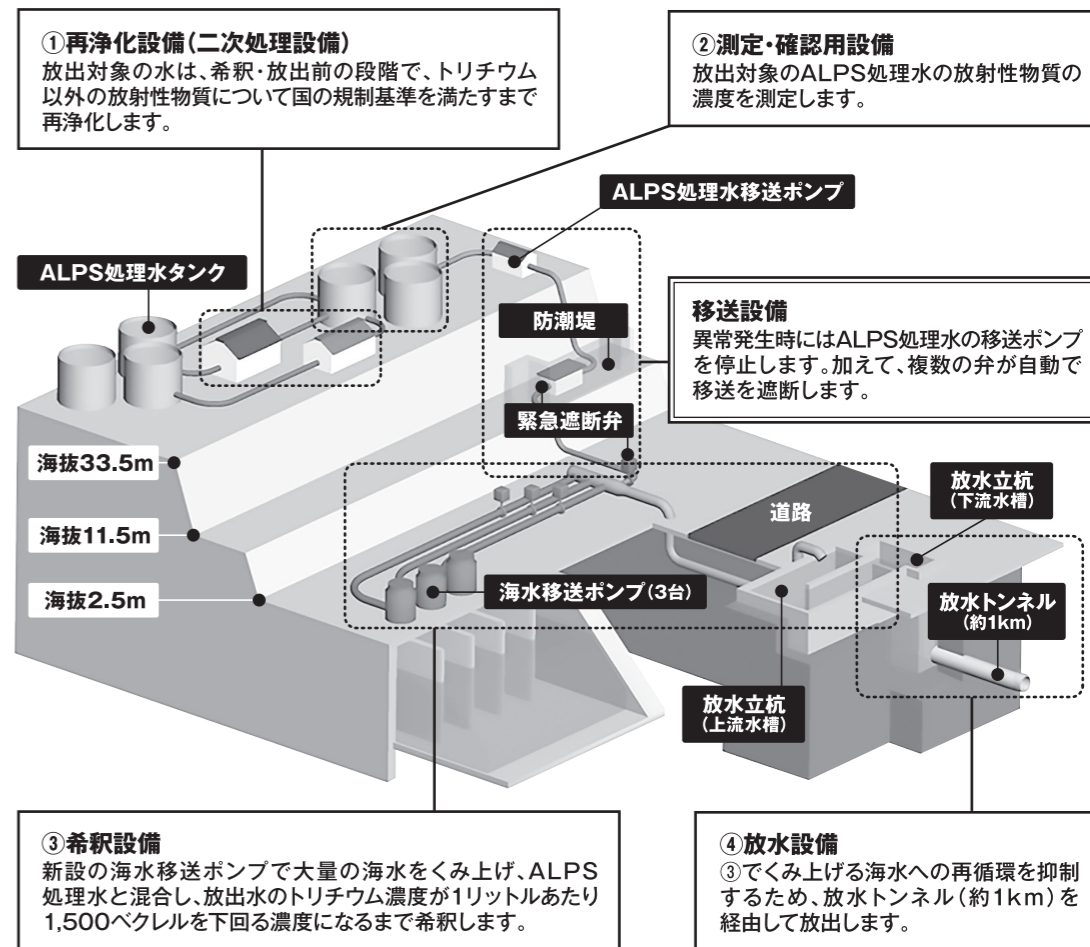
【トリチウムも規制基準を満たす】(右図③)

トリチウムは、規制基準(1リットルあたり6万ベクレル*)の40分の1未満の濃度になるまで大量の海水で希釈し、放出する水の安全性を確保します。

【海洋放出】(右図④)

海洋放出するトリチウムの量は、事故前(運転中)の放出管理目標値と同じ「1年あたり22兆ベクレル未満」で管理します。

※ベクレルは放射性物質がどのくらい放射線を出す能力があるかを表す単位



ALPS処理水に関する情報はこちらをご覧ください
▶[処理水ポータルサイト]
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/>



ALPS処理水の科学的根拠などを分かりやすくお伝えします
▶[ALPS処理水について、お伝えしたいこと]
https://www.tepco.co.jp/alps_guide/



福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水・処理水対策
▶[皆さまのご意見をお聞かせください]
<https://www.tepco.co.jp/decommission/voice.html>

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー
〒979-1301 福島県双葉郡大熊町大字夫沢字北原22